

河内地方の農業・農村



令和 8 (2026) 年 3 月
栃木県河内農業振興事務所

「河内地方の農業・農村」について

河内地方の農業・農村の振興につきましては、関係者の皆様方に特段のご尽力をいただき厚くお礼申し上げます。

県では、令和3年度から令和7年度までの5か年間、「成長産業として持続的に発展する農業・栃木」を基本目標に掲げた「とちぎ農業未来創生プラン」の元、少子高齢化に伴う人口減少をはじめ、経済のグローバル化やデジタル化の進展、自然災害の頻発化など社会の大きな変化に対応し、県民共有の財産である栃木の農業・農村を元気に輝かせ、誇れる“ふるさと”として次の世代にしっかりと引き継ぐことを目標に施策を展開してまいりました。

河内農業振興事務所では、「地域をつなぐ 未来につなぐ“かわちの農業・農村”を目指して」をキャッチフレーズとし、地域の特色を活かしながら、横断的かつ重点的に取り組む3つの地域戦略を策定し、関係機関・団体が一体となって推進してまいりました

- 地域戦略1 『地域が育てる河内の担い手、地域を支える農業基盤づくり』
- 地域戦略2 『「イノベーション5」による園芸立国かわちの実現』
- 地域戦略3 『伝えよう、つなげよう！河内地域の農村活力向上』

本書は、令和7(2025)年度に関係機関・団体と連携のもとに取り組んだ成果や、当地方の農業・農村の動きをデータ等で取りまとめたものです。

今後の執務の参考として活用いただければ幸いです。

また、県では、令和8年度からは、農政の基本方針となる将来像(10年後の目指す姿)を、「担い手と地域が元気に輝く栃木の農業～農業やるなら栃木県～」として、「とちぎ農業未来共創プラン」を策定し、令和12年度までの5か年間施策を展開してまいります。

併せて、河内農業振興事務所としましては、「～「農業のフロントランナー」かわちが創る農業の未来～」をキャッチフレーズとし、以下の3つのプロジェクトを進めてまいります。

- 地域プロジェクト1 『大規模経営体の育成と経営の継承』
- 地域プロジェクト2 『多様な販売と生産拡大へのチャレンジ』
- 地域プロジェクト3 『地域資源を生かした農村価値の創造と防災力強化』

目次

【本編】

I 令和7(2025)年度のトピックス

1	アグリトークin河内を開催	1
2	にら女性勉強会の実施	1
3	若手認定農業者との意見交換会を開催	1
4	いちご販売金額53億円達成	2
5	いちごりレー苗の安定生産	2
6	たまねぎ直播実演会の開催	2
7	カメムシ防除対策	3
8	地域計画の実行に向けた研修会や地域会合の開催	3
9	営農組織活動活性化研修会の開催	3
10	なしの園地流動化体制整備	4
11	畜産農家と園芸農家のマッチング	4
12	環境負荷軽減事業活動実施計画(みどり認定)の推進	4
13	環境に優しい“米”の理解促進	5
14	農産物の安全・安心対策研修会の開催	5
15	災害対応力向上研修会の開催	5
16	ブランド力・販売力向上に向けた研修会・相談会の開催	6
17	「バレンタインマルシェinかわち」を開催	6
18	宇都宮食育フェアでの展示	6
19	農地整備事業刈沼川地区で工事实施	7
20	新しいちご団地構想を検討(幕田西部地区)	7
21	次世代型生産基盤技術の導入推進	7
22	土地改良区の合併	8
23	田川流域農村地域雨水流出抑制対策協議会第1回対策検討会議の開催	8
24	水利施設整備事業根川頭首工地区の事業開始	8
25	農作物等盗難防止合同パトロールの実施	9

II 河内地域計画の取組

1	地域戦略1『地域が育てるかわちの担い手、地域を支える農業基盤づくり』	10
2	地域戦略2『「イノベーション5」による園芸立国かわちの実現』	13
3	地域戦略3『伝えよう、つなげよう！河内地域の農村活力向上』	16

III 普及指導計画戦略課題の取組

1	No. 1 「将来を担う新規就農者・青年農業者の確保・育成」	19
2	No. 2 「地域農業を支える多様な担い手の確保・育成」	20
3	No. 3 「地域の中心となる土地利用型経営体の育成と経営安定化」	22
4	No. 4 「都市部における持続可能な畜産経営の確立」	23
5	No. 5 「いちごの若手生産者育成と生産性の向上」	24

6	No. 6 「園芸立国かわち推進による産地の活性化」	25
7	No. 7 「果樹・花き産地の持続的な発展」	27
8	No. 8 「持続的に発展できる地域農業の推進」	29
IV	農業農村整備の推進方針 河内地方の取組	
1	農業の成長産業化	30
2	農村地域における防災・減災力の強化	32
3	多様な人が住み続けるための農村の振興	33
【資料編】		
I	河内地方の農業・農村の動き	
1	数値でみる河内地方の農業・農村	35
2	地図で見る河内地方の農業・農村	36
3	農家の状況	
	(1) 総農家	39
	(2) 主業農家	39
	(3) 農業従事者	39
	(4) 経営耕地面積規模別経営体数	40
	(5) 農産物販売金額規模別経営体	40
	(6) 農業経営改善計画の認定状況	41
	(7) 新規就農者の状況	41
4	農地の状況	
	(1) 農業振興地域の概要	42
	(2) 農地転用の推移	43
	(3) 農地流動化の状況	43
	(4) 水田整備率	43
5	農業生産の状況	
	(1) 主要農産物の生産状況	44
	(2) GAPの取り組み状況	46
	(3) Eマーク食品認証状況	46
6	令和7（2025）年度管内農漁業災害発生状況	46
7	令和7年度経営所得安定対策等実施状況	47
8	圃場整備事業（県営）実施状況	48
9	令和7（2025）年度多面的機能支払交付金の取組状況	49
II	補助・融資事業の状況	51
III	農業関連施設（補助事業関係）	57
IV	各種コンクール等受賞者一覧	59
V	関係機関・団体一覧	60

I 令和7（2025）年度のトピックス

地域農業を支える担い手の育成

（1）アグリトーク in 河内を開催

就農予定者等が、先輩農業者のほ場視察や参加者相互の意見交換を通し、新規就農に向けたイメージを確立するとともに、仲間づくりと地域への定着を促す目的で開催しています。

令和7年度は、いちごの就農予定者向けに開催し、先輩農家から就農時の苦労話、就農までに準備しておくこと等具体的なアドバイスをいただきました。

次年度以降も研修生と先輩農家の相互交流により、円滑な就農に向けた支援を行っていきます。



意見交換



先輩農業者とは場で交流

（2）にら女性勉強会の実施

女性生産者や女性パートナーが定期的集まって技術向上や経営改善を目指す「参画型」が特徴の会です。

令和7年度は、講習会や現地検討会だけでなく、複数人のコーディネーターと連携し、レシピカード等を作成しました。作成したレシピカードは、小学校やマルシェ、直売所等で配付し地元産にらの認知度向上と販売促進を図りました。

勉強会をきっかけに女性が一步前に踏み出し、産地全体の活性化が図られることが期待されます。



にらレシピ集完成



学校給食にて食育

（3）若手認定農業者との意見交換会を開催

上三川町東部地区の将来の地域農業を担う若手認定農業者を対象に、意見交換会を開催しました。

上三川町の農業の強みや課題、今後の方向性をテーマに、KJ法によるワークショップ形式で活発な意見交換が行われ、参加者からは、農作物の販路拡大や基盤整備の必要性など、将来を見据えた具体的な意見が出されました。

今後は、いただいたご意見を参考に、将来の営農や生産環境の在り方とその実現に向けた取り組みについて検討を進めてまいります。



意見交換会



ワークシート

生産向上の取組

(4) いちご販売金額 53 億円達成

関係機関と連携して設置した「とちあいか」未来創りサポートチームによる新規栽培者への技術支援と普及促進の取組により、いちご栽培面積の約 9 割が「とちあいか」へと転換しました。

とちあいかは、高収益品種として評価が高く、単収や品質の向上することから、生産者の所得向上に貢献しています。JA うつのみや苺専門部における令和 7 年産いちごの販売金額は前年比 5 億円増となる 53 億円を達成し、産地の強化が進みました。

今後もサポートチームの活動を強化し、産地の向上を図ります。



とちあいか栽培講習会

(5) いちごリレー苗の安定生産

いちご栽培では、苗の増殖と養生のための育苗作業が、近年の猛暑の影響により、技術面だけでなく身体的負担の大きい工程となっています。特に、高齢の生産者や技術の習得途上にある新規就農者にとっては、栽培上、大きなハードルとなっています。

作業の分業化を進め、産地の維持・発展を図るため、令和 8 年産よりリレー苗供給事業を開始し、計 36,900 株を 7 名の生産者へ供給しました。

今後も、リレー苗のさらなる普及に向けた確な需要調整と、苗生産の技術向上に取り組んでいきます。



リレー苗生産の様子

(6) たまねぎ直播実演会の開催

営農集団や既存たまねぎ生産者を対象に、上三川町でたまねぎ直播実演会を実施しました。

実演会の出席者は合計で 50 名以上となり、たまねぎ直播栽培の概要説明や実演、情報交換を行いました。

今後は、直播栽培を核とする省力一貫体系を確立し、営農集団等にたまねぎ栽培を推進し、大規模生産者を育成することにより、たまねぎ産地の維持・継続を図っていきます。



直播実演会の様子

(7) カメムシ防除対策

水稲および果樹におけるカメムシ類の発生抑制を目的に、フェロモントラップや白色粘着板を用いた調査と、生産者・関係機関への情報提供による防除対策の徹底を図りました。水稲では7～9月に粘着板を設置し定期調査を実施しました。1等米比率は92.4%（前年87.6%）との結果でした。果樹では6～10月にトラップ調査を行い、発生予測情報をFAX・LINEで19回周知するとともに、現地検討会や講習会を18回開催し、発生予測に応じた適期防除を促しました。これらの取り組みにより、カメムシによる被害はほとんど発生せず、次年度も同様の体制で継続する計画です。



すくい取り調査



カメムシ類越冬量調査

地域農業を守る取組

(8) 地域計画の実行に向けた研修会や地域会合の開催

地域計画は、「人・農地プラン」の取組を深化させ「農業を担う者」の農地を定めた「目標地図」による「10年後の地域農業の設計図」で、令和7年3月に策定されました。

地域計画を進めるため、宇都宮市では8月と2月、上三川町は3月に地域会合を開催し、地域の課題等の把握・解決策の検討、農地の集積、遊休農地の対応について意見交換を行いました。

地域計画は、今後の農地を維持・発展していくため重要な施策であることから、引き続き着実な実行に向け支援していきます。



研修会



目標地図

(9) 営農組織活動活性化研修会の開催

営農組織が地域農業の担い手として継続的に活動するための取組事例を学び、経営の安定化と効率化に資することを目的に開催しました。講演では、農地所有適格法人「こかいの郷」の設立背景、組織統合の課題、若手人材の受入れ、初年度の成果、規模拡大や加工場設置の展望が紹介され、地域農業の持続性向上に向けた方向性を学ぶ機会となりました。

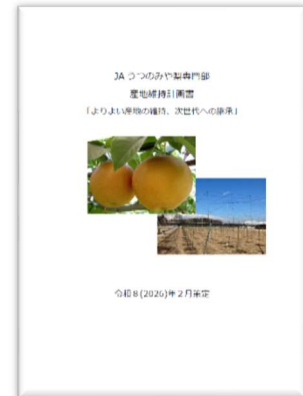


研修会

(10) なしの園地流動化体制整備

JA うつのみや梨専門部では産地の持続的な発展のため、現専門部員を対象に園地の今後について意向調査を行い、3回の会議を経て「産地維持計画書」を策定し、専門部員の承認を得ました。

令和8年以降、計画に基づき、生産者、JA、行政機関が一体となって、産地内外からの新たな担い手を確保・育成する支援体制の構築により、梨産地の将来を支える人材の育成を推進していきます。



作成した梨産地維持計画書

(11) 畜産農家と園芸農家のマッチング

堆肥の有効活用を推進するため、耕畜連携コーディネーターを中心に、堆肥利用を希望する農家に向けた堆肥見学会を開催しました。また、遊休施設となっていた堆肥舎を畜産農家と園芸農家のグループで共同利用する方針が決まりました。

今後は堆肥を提供可能な畜産農家と、堆肥を必要とする農家のマッチングを支援するとともに、共同利用の堆肥舎を活用してスムーズな連携が取れる体制づくりを支援し、堆肥の有効活用の取組を進めていきます。



アスパラガス農家での堆肥施用



堆肥の有効活用チラシ

持続性の高い技術向上に向けた取組

(12) 環境負荷軽減事業活動実施計画（みどり認定）の推進

「環境負荷の低減」と「収益性の向上」の両立を目指す農業者に対し、みどり認定の取得と変更計画の作成を推進し、農業改良措置の認定を支援しました。また、畜産部門では団体での認定取得を支援し、令和8年1月末現在の認定数は、30件（グループ申請13件、個人申請17件）、570名となりました。

引き続き、関係機関等と連携して、生産組織等の申請を支援し、とちぎグリーン農業の推進に寄与していきます。



みどり認定ポスター

(13) 環境に優しい“米”の理解促進

持続可能な農業への発展を目指し、炭素貯留効果のあるバイオ炭（もみ殻くん炭）を活用した生産技術を推進しています。

調査ほでの調査結果を農業者にフィードバックし、栽培技術の改善を支援するとともに、もみ殻くん炭施用水田で生産された「バイオ炭米」をイベントで試食PRしました。

引き続き、バイオ炭米生産技術のさらなる検討と、消費者への理解促進を図っていきます。



もみ殻くん炭の散布



バイオ炭米のPR

(14) 農産物の安全・安心対策研修会の開催

農産物出荷者や関係機関・団体を対象に、安全で信頼性の高い農産物を出荷するための知識を習得することを目的に、研修会を開催しました。

専門家から、農薬事故の防止、基準値超過事例と対応方法、ラベル表示の読み取り方、飛散防止技術、散布器具の洗浄方法などを学び、また、山菜など特定品目の出荷における留意点や、有毒植物・クピアカツヤカミキリへの注意喚起など、現場で求められる最新情報を共有しました。

引き続き、消費者に安全・安心な農産物を届けられるよう、地域一体となって取り組んでいきます。



河内庁舎での研修会



上三川会場での研修会

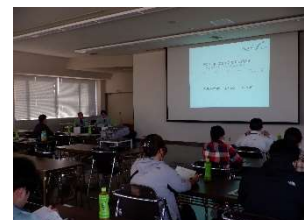
安心して安全な農産物を届ける取組

(15) 災害対応力向上研修会の開催

いちご栽培を希望する新規就農予定者を対象に、大雪や台風などによる施設園芸の被害を未然に防ぐための研修会を開催しました。

専門家よりハウス被害の実態、補強方法、非常時の対応、特に、側面補強や屋根部の耐雪対策、風の侵入防止など、現場ですぐに実践できる具体的技術を紹介するとともに、ミニハウスを用いた補強テープ施工の実演を行いました。

今後、農業経営を始める参加者にとって、ハウス構造の理解、補強する重要性など、経営上のリスクを事前に学ぶ機会となりました。



災害対応力向上研修会



ミニハウスを使った実演

農産物や農産加工品の販売促進支援

(16) ブランド力・販売力向上に向けた研修会・相談会の開催

河内地域の農産物の魅力をより多くの人に届けるため、生産者がブランド発信力や販売力を高められるよう、専門家による研修会・相談会を実施しました。

今年度は、ブランド構築、情報発信、デザインをテーマに開催し、参加者は自らの強みを整理し、効果的に伝えるための実践的な知識を学びました。

引き続き、生産者のチャレンジを後押しする支援を行い、河内地域のブランド価値をより高めていきます。



研修会の様子

(17) 「バレンタインマルシェ in かわち」を開催

河内地域の農産物の魅力を広く発信し、生産者と消費者が直接交流する機会を創出することで、地域農業の理解促進とファンづくりを進めることを目的として、宮みらいライトヒルの交流広場でマルシェを開催しました。

河内地域の農産物及び農産加工品の販売や、花の寄せ植え体験等を行い、県内外から多くの人々が訪れました。

今後も、生産者と消費者が直接交流できる機会を通じて、河内地域の農産物の魅力を発信します。



マルシェ会場

農業・農村の理解促進

(18) 宇都宮食育フェアでの展示

河内地域の農産物や農業の魅力を伝えるため、第20回うつのみや食育フェアに出展し、パネル展示・クイズ・VR農業体験を行いました。

参加者からは、「地元農産物の魅力を知ることができた」「VRでの農作業体験が楽しかった」など、嬉しい声を多くいただき、地域農業に対する理解や関心の高まりを実感できる場となりました。

今後も、多くの人に農業への興味関心を持ってもらえるよう、楽しく学べる機会を創出していきます。



VR体験

(19) 農地整備事業刈沼川地区で工事実施

宇都宮市刈沼川地区では、平成30年度から令和9年度の事業工期で、担い手への農地の集積・集約化やほ場の大区画化による生産コストの低減など生産性向上を図るため、宇都宮市刈沼町・野高谷町・道場宿町・氷室町地内において圃場整備工事を実施してきました。

令和7年度は、地区内の10.6haにおいて、排水条件の改善により水田の汎用化を図り園芸作物の導入を可能にするとともに、生産性の向上を目的として、暗渠排水工事を実施しました。



暗渠排水工事



掘削状況

(20) 新しいちご団地構想を検討（幕田西部地区）

宇都宮市こども総合科学館南側の地域では、現在「幕田西部地区」として、ほ場整備事業の実施に向けた計画づくりを進めています。農作業の効率化と低コスト化を図り、将来に渡って担い手農家が活躍できる生産基盤の構築を目指すとともに、担い手による経営規模の拡大を促進します。

また、地域外からいちご農家を招へいし、大規模ないちご団地を形成することで、地域の特産品であるいちごの生産拡大に寄与し、幕田西部地区のみならず宇都宮市全体の活性化にもつなげていきたいと考えています。



幕田西部地区現地状況
(ドローンにより撮影)



いちごの生産イメージ

(21) 次世代型生産基盤技術の導入推進

河内管内では、水管理システムや排水路の暗渠化などの「次世代型生産基盤技術」を導入した基盤整備を推進しています。これらの技術を導入することで、農作業や水管理の効率化と省力化、生産の安定化や収量向上、低コスト化といった効果が期待され、地域農業の持続性を高める大きなメリットがあります。

また、既に次世代型生産基盤技術を導入した地区において、実施した効果や課題を検証し、導入の際の留意点を整理したうえで、計画地区への導入につなげていきます。



地元説明会



水管理システム

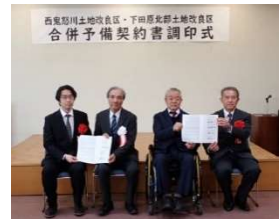
(22) 土地改良区の合併

土地改良区における組合員の減少、高齢化に伴う役員のなり手不足や土地改良施設の老朽化、資材・電気代高騰による維持管理費の増加といった課題に対応するため、宇都宮市内の2組の土地改良区（うつのみや中央と上石那田、西鬼怒川と下田原北部）において、合併予備契約書調印式が行われました。

それぞれの土地改良区は、新たな「うつのみや中央土地改良区」並びに「西鬼怒川土地改良区」として令和8(2026)年8月の合併認可を目指しており、合併により運営体制の強化や土地改良施設の適切な保安全管理が図られ、将来に渡り地域農業の持続的な発展に貢献していくことが期待されます。



うつのみや中央・上石那田



西鬼怒川・下田原北部

(23) 田川流域農村地域雨水流出抑制対策協議会第1回対策検討会議の開催

近年の気候変動の影響による水災害の頻発・激甚化に伴い、昨年度、田川流域では田んぼダムやため池などを活用し、河川の氾濫を防ぎ、被害を減らしていくための方針として「田川流域農村地域雨水流出抑制対策基本指針」を策定しました。

今年度は、策定された基本指針に基づき田川流域での雨水流出抑制対策をより効果的に進めていくため、関係者が集まり、情報を共有しながら理解を深める機会として「第1回対策検討会議」を開催しました。

会議では、基本指針の説明や実際の取り組み事例を紹介し、地域全体での関係者の連携と意識の醸成を図りました。



第1回対策検討会議



田んぼダム設置状況

(24) 水利施設整備事業根川頭首工地区の事業開始

根川頭首工は西鬼怒川の上流部に位置し、宇都宮市内の約400haに及ぶ農地を潤す基幹的農業水利施設です。

本施設は造成から約60年が経過しており、取水ゲートの動作不良やコンクリート構造物の摩耗等が生じていることから、農業用水の安定供給を図るため、対策工事に向けた設計業務に着手しました。

対策工事については施設の劣化状況に応じた工法を選定し、経済的かつ効率的な長寿命化対策を推進していきます。



施設全景



取水ゲート

(25) 農作物等盗難防止合同パトロールの実施

河内地域では農作物の盗難抑止と防犯意識の向上に取り組んでいます。

8月・12月の梨・いちごの出荷最盛期前には、警察・農業団体・行政が合同でパトロールを実施しました。「盗難を防げる畑づくりに努めたい」といったコメントをいただくなど、防犯意識の向上に寄与しています。また、11月のにら生産者向け盗難防止研修会の開催や、盗難防止のぼり旗とチラシの作成・配布も行いました。

今後も関係者が一体となり、農業者が安心して営農に専念できる環境づくりに努めてまいります。



合同パトロール



盗難防止研修会